



砥鹿神社

愛知県豊川市鎮座。社名の由来は大己貴命が国土開拓のため、但馬国朝来郡赤淵宮を経て三河国本宮山まで東進し、神霊を留めた神跡「止所（とが）」の意とする説や、「豊川」「鳥狩」からの音通説がある。三河国一宮・国幣小社として本宮山奥宮、山麓南の里宮の二所一体で崇敬を受ける。奥宮には磐座と崇められる巨岩「国見岩」、里宮には大きさ日本一のさざれ石がある。



くにたまの会

くにたまの会会報

【第10号】

発行/くにたまの会
 高槻県出雲市大社町杵築東195
 出雲大社社務所内
 TEL: 0853-53-3100



ご挨拶

くにたまの会総裁
 出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様にはそれぞれの奉務神社に於きまして日々のご奉仕を通じて御神徳の宣揚と啓発にお努めになられていらっしゃいます。日本全国に広がる信仰の輪の拡がりには、偏にそうした皆様のお務めの御蔭であると深く感謝申し上げます。

また畏くも天皇皇后両陛下におかせられましては、愈々日々御麗しく御公務に御精励あそばされておられますこと、洵に慶賀の至りに存じます。これからも大御代の益々の弥栄を祈念申し上げ、御皇室の尊厳維持に一層努めて参りたいと存じます。

扱て、新型コロナウイルス感染症につきましては、社会的な規制も緩和されました。これにより、昨年まで自粛していた会合等も従来の形式で開催出来るようになり、国内では多くの人々が再び訪れた平穏の世を享受しているように見受けられます。

しかしながら世界を見渡しますと、ロシアのウクライナ侵攻など、依然として混沌とした争い事が続いています。

そのような誠に困難な世情ではありますが、私共は活動を通じて誇りある日本の伝統・文化とその精神の継承に努めており、更に大国主大神様の和譲の精神を広く発信することにより社会の平和に寄与していくことが使命であります。

今後とも信仰を通して、その御神徳の宣揚と啓発に力を合わせ、共々に精進をと念じ上げますとともに、本会にお心寄せをいただきますようお願いを申し上げます。

末筆になりますが、聖上の安泰長久、皇室並びに我が国の弥栄、会員の皆様方の奉務神社の益々のご隆昌をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和五年度くにたまの会総会

於・愛知県 砥鹿神社

去る令和五年七月二十三日、くにたまの会総会を愛知県豊川市の砥鹿神社参集殿を会場として、来賓に全国八幡宮連合総本部長 田中恆清氏（石清水八幡宮宮司）、香取神社連合会会長 香取武氏（香取神宮宮司）、鹿島会会長 鹿島則良氏（鹿島神宮宮司）に御臨席賜り、又、会員神社二十九社四十八名が出席しての開催となりました。



砥鹿神社御本殿前にて参加者一同での記念写真

総会に先立っての、砥鹿神社正式参拝では、香取神社連合会会長 香取武氏（香取神宮宮司）、鹿島会会長 鹿島則良氏（鹿島神宮宮司）が拝礼、続いて本会 千家尊祐総裁と鈴木寛治理事長に併せ当会全員が拝礼、その後、御本殿前にて、参加者全員で記念写真を撮影しました。



砥鹿神社正式参拝

総会は、馬淵直樹理事（日吉大社宮司）による開会の辞の後、出席者全員で神宮並びに奉務神社遷拝、国歌斉唱、この一年間に帰幽された会員のご冥福を祈り黙祷を捧げました。続いて、千家尊祐総裁からの挨拶では、度々発生している集中豪雨に

より、被害を受けられた方々へお見舞いの言葉があり、来賓を代表して全国八幡宮連合総本部長 田中恆清氏（石清水八幡宮宮司）から「くにたまの会会員神社は三〇〇社を超える多くの会員の皆様が横の繋がりをしっかりと深めながら、さらに斯界の発展のために活躍をいただいていると心から敬意を表すのと同時に、皆様方の熱意に感激しております。また、コロナ禍の経験を活かすことによって新たな神社信仰の発展のために役立つのではないかと感じております。」と総会開催にあたり祝意の挨拶をいただきました。



挨拶される全国八幡連合総本部長 石清水八幡宮宮司 田中恆清氏

また、開催神社である砥鹿神社岩崎和夫宮司からは「砥鹿神社の崇敬会では毎月一回古事記を読む会を開いております。先日の古事記を読

また本総会に対して、全国諏訪神社連合会会長 北島和孝氏（諏訪大社宮司）、全国熊野会 上野顯氏（熊野速玉大社宮司）、全国春日連合会総裁 花山院弘匡氏（春日大社宮司）、全国賀茂社連合理事長 新木直人氏（賀茂御祖神社宮司）より頂戴した御祝状並びに祝電を披露した後、馬淵直樹理事（日吉大社宮司）を議長として議事に入り、事務局より令和四年度事業報告及び予算報告、令和五年度の事業計画及び予算案を提示・審議いただき、いずれも承認いただきました。



挨拶される 砥鹿神社 岩崎和夫宮司

む会では偶然にも「国譲り」のお話を取り上げられましたので、出雲の神々が活躍される神話である神々のお取り計らいがあったのではないのかと感じ、大変感慨深くなりました。」と挨拶をいただきました。

◎次回開催地は栃木県日光市

次年度の開催地について、栃木県の日光二荒山神社にて開催を予定している事が報告され、中庵輝美副理事長（日光二荒山神社宮司）から「次回は日光らしさを以て多くの皆様方をお迎えさせていただきたい。」との挨拶がありました。

その後、宮野直生理事（出羽三山神社名誉宮司）による閉会の辞により、総会は滞りなく終了しました。



馬淵議長による議事進行の様子

総会後、豊川市無形文化財指定「金沢歌舞伎」副会長 稲垣考俊氏により豊川市無形文化財指定「金沢歌舞伎の歴史と継承」と題した講演会を行いました。



稲垣氏による講演会の様子

稲垣氏は歌舞伎について、慶長五年に出雲大社で巫女をしていた阿国が京都で稚児踊りはじめたことや、出雲大社の阿国と歌舞伎の密接な関係にあることを述べられた。愛知県豊川市の北東部に位置する金沢地区には、江戸時代末から農村歌舞伎が伝わっており、主に春の祭礼の余興として伝承されたもので、地元青年など少ない部員ではあるが伝統文化の火を絶やさぬように努めたい等、歌舞伎の歴史や継承についてのお話をいただきました。

◎四年ぶりの懇親会和やかに

総会・講演会后、会場を砥鹿神社参集殿二階「延喜の間」へ移し、鈴木寛治理事長（大神神社宮司）の開会挨拶により懇親会が開催されました。



鈴木理事長の懇親会開会挨拶の様子

懇親会では猿渡正盛副理事長（大國魂神社宮司）の発声による乾杯の後、普段顔を合わす機会の少ない会員同士が互いに親睦や交流を深めました。最終和やかな笑い声に包まれました。



猿渡副理事長の乾杯挨拶の様子

役員会正式参拝通信

令和五年七月二十二日、役員会に先立ち愛知県三河国の大社神社への正式参拝が執り行われました。

正式参拝のため御本殿へ向かい始めると同時に煙火が打ち上げられ心に残る参拝となりました。

また、煙火の玉名は「四寸昇り銀龍笛付き三段雷」と言い、打ちあがる時に笛の音がして、上で三回爆音がするという意味だということです。

参拝後に大社神社総代の皆さんと記念写真を撮影させていただきました。



御本殿前にて大社神社総代の皆さんとの記念写真



正式参拝へ向かう役員一同

島根県支部設立総会

於・島根県神社庁

去る令和五年六月二十七日、島根県神社庁を会場として、くにたまの会島根県支部発会式が、千家尊祐くにたまの会総裁・角河和幸島根県神社庁長・忌部正孝島根県神社庁副庁長・篠田範雅島根県神社庁副庁長御臨席のもと開催されました。

くにたまの会では今後全国規模の会として活動していく上で、会員神社同士の緊密な連携を図ることが重要であることから各都道府県単位での支部結成の必要について会員各位から意見提案がされてきました。



出席者一同での記念撮影

当日は、島根県内の会員神社六十六社の内十八社が出席、島根県神社庁会議室にて午後四時より発会式が開催され、設立発起人代表として石原道夫稲田神社宮司による挨拶があり、続いて来賓である千家尊祐くにたまの会総裁を始め角河和幸島根県神社庁長から祝意の言葉がありました。その後、大社町森荒神社平岡宮司の司会により会が進められ、同じく大社町赤塚荒神社川谷宮司より支部設立に至る経過報告がされました。



発会式の様子

議案として、「支部会則(案)」また「支部役員(案)」の二つが諮られ、全会一致により承認されました。

支部長には、これまで設立準備から尽力された稲田神社の石原道夫宮司が選任されたほか、副支部長以下十五名の役員が選任されました。



設立発起人代表として挨拶する石原宮司

総会後は、島根県神社庁前において出席者全員で記念撮影を行った後、会場を移し午後五時より祝賀会が開催されました。

祝賀会では支部長となった石原宮司より支部結成が果たしたことへの喜びと今後の支部運営に対する抱負が述べられました。その後、副支部長の江津市金刀比羅神社門屋臣宮司による乾杯の後、終始和やかな雰囲気では進みました。午後六時三十分頃、副支部長の玉作湯神社遠藤孝男宮司により、支部の更なる拡充を誓った締めめの挨拶により散会となりました。

今回の支部結成をきっかけとして、島根県に於いては会員相互の交流・連携が進むことがさらに期待されます。



祝賀会にて挨拶する石原支部長

此度、新任された役員は次の通りです。

くにたまの会島根県支部役員

- 支部長 石原 道夫(稲田神社)
- 副支部長 錦田 剛志(万九千神社)
- 門 屋臣(金刀比羅神社)
- 遠藤 幸男(玉作湯神社)
- 後藤 和彦(大原神社)
- 佐草 敏邦(八重垣神社)
- 松岡日出夫(來次神社)
- 齋木 正保(國主神社)
- 武田 敦隆(那佐神社)
- 小汀 泰之(鹿島神社)
- 小野 高慶(経島神社)
- 宮能 壮充(瀧御前神社)
- 篠田 範雅(恵毘須神社)
- 忌部 正孝(堅磐神社)
- 角河 和幸(愛宕神社)
- 千家和比古(出雲大社)

また、全国各地で今後多くの支部が結成されることを期待致しております。

役員神社紹介

小國神社

【鎮座地】

静岡県周智郡森町一宮三九五六一

【御祭神】

大己貴命（おこなむちのみこと）

別称 だいきく様

【由緒】

社名の「小國」は、「神を祀る神聖な場所」または「神が鎮まる清らかな場所」を意味します。



川宮一にみも青の緑新
心癒される

創祀の年代は神代と伝わり詳らかではありませんが、延宝八年（一六八〇）の社記によると欽明天皇の御代十六年（五五五）に本宮峯（現本宮山）に御神靈が鎮まったことから、人々が祭祀を始めたと伝わります。この本宮山からは遠江国（現遠州地方）を一望することができます。

その後、山麓六キロメートルの現在地に遷宮、大宝元年（七〇一）二月十八日に勅使が奉幣、十二段の舞楽（現 古式十二段舞楽）が奉奏されました。以後は年々神階が昇格し、中世には武將をはじめ朝野の崇敬が極めて篤く近世に至りま

元龜三年（一五七二）徳川家康公は、神主に命じて御神靈を別所に遷し、三条小鍛冶宗近を銘する太刀と祈願文を奉り、大願成就を祈願して火を放ち、全ての社殿を焼失しました。その後、祈願が成就したこと、天正三年（一五七五）に家臣の本多重次に命じ、社殿を再建、天正十一年（一五八三）には全てが造営となりました。長篠の戦い、関ヶ原の戦いと勝利を重ね、江戸幕府開かれた慶長八年（一六〇三）には当時の遠江国の社寺において最大の五九〇石の朱印を安堵され、以後歴代徳川家の篤い崇敬を受けています。明治六年には国幣小社へ列格。明治十五年には火災で御本殿以下社殿を焼失しましたが、出雲大社のご支援により御本殿図面を拝借、明治十九年に出雲大社御本殿の約二分の一の大きさの御本殿以下社殿を再建しています。



御本殿直後替葺き

【心安らぐ「神域」】

境内は約三十五万坪、「癒しの斎庭」とも呼ばれ、清流「宮川」が御神域の南北に流れ、スギやヒノキの巨木に囲まれ、四季折々の花々が美しく咲き揃い、紅葉・青もみじの名所として親しまれています。



季節の紅葉なす織錦

【神縁無窮の地】

現在は、縁結び・心願成就・厄除の社として県内外からの信仰は篤く、年間を通して多くの参拝者をお迎えしています。また、平成十五年九月十四日には秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下が御参拝遊ばされ、平成十八年十一月八日には神宮斎主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には高円宮妃久子殿下が御参拝遊ばされました。

【特殊神事】

古式十二段舞楽

（国指定重要無形文化財）



舞楽「色香舞」古式十二段

例祭（四月十八日）に一番近い土曜日、日曜日に一日かけて奉奏します。

大宝元年（七〇一）の勅使奉幣・舞楽奉奏を起源とし、天下泰平・五穀豊穡の祈りとともに地域の人々により連綿と受け継がれています。

また、今日の舞楽では失われてしまった所作や楽が部分的に残っていることから、学術研究、舞踏研究の対象としても貴重な神事です。

【徳川家康公の立ち上がり石】

家康公の生涯において重要な祈願所のひとつが小國神社であったと伝えられています。

元龜三年九月二十二日に「当社（小國神社）の神力に頼らなければ勝つことができない」という切実な思いを込めた願文と名匠「三条小鍛冶宗近」を銘する太刀を当社に奉納の上、大願成就を祈願しました。（小國神社 延宝八年古記録より）
次いで、犬居城攻略の道すがら再び参拝し、この石に腰かけて休息されたと伝えられています。



石上がり立ちの家康公

以来、家康公は長篠の戦い・関ヶ原の戦いに勝利し、天下統一の大願を叶えたことから「立ち上がり石」と伝わり、これにあやかり心願成就を祈り石に腰かけて帰る人々の姿が絶えません。



授与特別五年和令
「石上がり立ちの家康公」のご朱印

会員増加の動向と 今後の方針

新たにご加入いただいた会員神社は左記の七社であります。

- ・高知県 池川神社宮司 片岡政徳氏
- ・東京都 居木神社宮司 森田義巳氏
- ・神奈川県 諏訪神社宮司 岩城純隆氏
- ・島根県 比良神社宮司 中田宏記氏
- ・広島県 適保姫神社宮司 渡部公磨氏
- ・京都府 八坂神社宮司 野村明義氏
- ・北海道 上川神社宮司 角田秀昭氏

現在の会員神社は新規加入神社を含め三〇九社となりましたが、まだ少ない県があるようです。

事務局としても引き続き奉斎神社を調査し、ご入会の勧誘を行ってまいります。各会員神社の皆様におかれましては、勧誘のお声かけをお願い致します。ご入会をご検討の神社には入会案内資料をお届けいたしますので、事務局までご連絡をお願いします。

「くにたまの会」会員神社異動報告

●宮司就任・退任

- | | | |
|-----|----------|--------|
| 北海道 | 江南神社宮司就任 | 中村 文彦氏 |
| 群馬県 | 琴平神社宮司退任 | 市川東太郎氏 |
| 群馬県 | 琴平神社宮司就任 | 市川 孝子氏 |
| 島根県 | 草野神社宮司就任 | 家原 孝史氏 |
| 滋賀県 | 柏木神社宮司就任 | 川島 雅親氏 |

「くにたまの会」会員神社職帰幽

- | |
|-----------------------|
| 遠藤 融氏 (島根県 玉作湯神社名譽宮司) |
| 菱沼 至広氏 (栃木県 鷲宮神社宮司) |
| 宮田 一孝氏 (東京都 出雲神社宮司) |
| 川島 雅臣氏 (滋賀県 柏木神社宮司) |
| 柴田 直儀氏 (北海道 上川神社名譽宮司) |
| 家原 成宜氏 (島根県 草野神社宮司) |

右の方々のご帰幽を悼み、謹んで追悼の意を表します。

※慶弔のお知らせがございましたら事務局までお知らせ下さいませ。



広報活動について

くにたまの会ホームページの内容や会報の更なる充実を図るため、会員神社の皆様方からの情報提供をお願いします。就きましては、会員神社で行われる遷座祭・式年祭・特殊神事、また地域の伝統行事や身近な出来事などを事務局までお寄せ下さいませ。

会のホームページや会報を通じ、会員神社の皆様幅広く知っていただくことで、神社間の相互交流にも繋げてまいりたいと存じます。

送り先

〒六九九一〇七〇一
島根県出雲市大社町杵築東一九五
出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」宛

電話 〇八五三一五三二二〇〇
メール joh@izumnooyashiro.or.jp
※お写真も一緒をお願いします。